

リハビリ科のアドバンスト

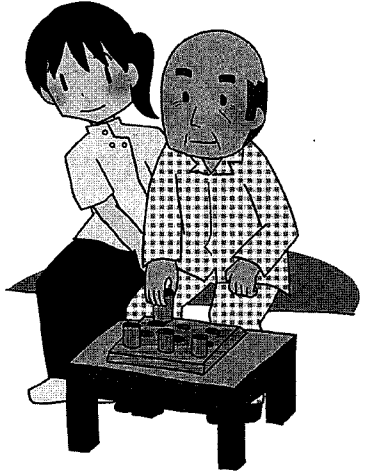
「脳科学」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、脳卒中ケアの基本的な考え方は従来の常識では『脳卒中など脳の血管障害によって障害された脳の神経機能の回復は絶対にありえない』というものでした。その基本原則に則り、麻痺を改善するのではなく利き手を交換するなどの残存機能による代替的な手段獲得が、脳障害に関するリハビリテーションの中心でした。

しかし、最新の脳科学の発展に伴って神経の変化や脳のネットワークの再構築などによる回復例が相次いで報告され始め、脳障害に関するリハビリテーションは、治療として新しい時代を迎えました。そして脳科学に基づく神経機能回復の促進を目的としたリハビリテーションが『ニューロリハビリテーション』として切り開かれつつあります。

ニューロリハビリテーションとは？ 新しい次代を迎えたリハビリ治療

「脳科学」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、脳卒中ケアの基本的な考え方は従来の常識では『脳卒中など脳の血管障害によって障害された脳の神経機能の回復は絶対にありえない』というものでした。その基本原則に則り、麻痺を改善するのではなく利き手を交換するなどの残存機能による代替的な手段獲得が、脳障害に関するリハビリテーションの中心でした。

報告の例をご紹介します。①障害のある手足を強制的に使用。1日6時間の集中トレーニングを数週間続けると運動機能が回復し始める。②発症後、早期から強制的に使用する方が効果的である。③簡単な反復運動では脳に変化は起きない(70%の成功率が望ましい)。



具体的方法としては、
◆C I療法(拘束誘導運動療法) Ⅱ段階的な難易度に調整された課題を集中的に行う。
◆川平法(促進反復療法) Ⅱ

郡山市の「子育て世代包括支援センター事業」 4月から4か所に母子保健コーディネーター配置

配置場所	担当エリア
こども支援課	旧市内・富田地区
安積行政センター	安積・三穂田・田村・中田地区
富久山行政センター	富不山・日和田・喜久田・西田地区
片平行政センター	片平・大槻・逢瀬・湖南・熱海地区

相談課からのメッセージ

郡山市は、妊娠期から子育て期に至るまで切れ目のない支援を行うため今年4月から市内4か所に母子保健コーディネーターを配置、様々な悩みなどの相談事業を行っています。フィンランドで行っている『ネウボラ』の郡山版。妊娠から出産、出生後、子育て期までの各種相談を受ける総合的な相談支援事業です。妊産婦と乳幼児の実情を把握し、必要に応じ支援プランの策定や地域の医療・福祉機関と連携して連絡調整を実施、妊産婦および乳幼児の健康の保持・増進に関して包括的な支援を実施しています。

【事業内容】
◆すべての妊産婦の状況を定期的に把握し、切れ目ない必要な支援の提供。
◆助産師である母子保健コーディネーターの配置により妊娠中や出産時期の相談。

脳卒中の後遺症改善
機能回復の神経リハビリ多様に
れるーなどです。
◆回復経頭蓋磁気刺激法(rTMS) Ⅱ頭皮上から磁気刺激を行い、脳を人工的に変化させる。

◆機能的電気刺激療法(FES) Ⅱ神経の残存機能に同期して電気刺激を与え、動作を再建する。
以上の方法がありますが、これらを組み合わせた『ハイブリッド療法』も推奨されています。(老健ゴールドメディア理学療法士・添田健仁)

